

2009年1月18日

浜田市議会議長 牛尾 昭 様

社会クラブ会派研修視察報告書

下記の通り視察を行ないましたので、その結果を報告致します。

記

1、期 間 平成20年11月18日～11月20日

○ 視察先 山梨県甲府市 ・ 千葉県銚子市

3、参加者 江口修吾・三浦一雄・新田勝己

4、調査の概要

【甲府市】

○小学校適正規模（統合問題）について

【銚子市】

○市民病院廃止の経過について

* *甲府市* *

- 甲府市は、人口20万人で山梨県のほぼ中央に位置する県都である。甲府に市街が形成され、甲斐国の府中として名実ともに政治や経済、文化の中心地となったのは、武田信虎の開城による。城はわずかに濠をめぐらせた簡素な構造で、「人は城、人は石垣、人は堀」の歌を思わせる。甲州ぶどう、水晶細工は有名である。

調査事項の小学校適正規模（統合問題）について

浜田市も合併し、都市部と周辺、自治区等において小学校の統廃合が審議、検討や近い将来、学校の再編成を考える時期が来る。背景は少子高齢化と経済の変化による居住環境の問題が起こってくる。

甲府市の市立小学校の適正規模・適正配置について

甲府市の児童・生徒数の現状は、全国的な少子化傾向及び市中心部のドー

ナツ化現象を背景に、小学校は昭和55年度をピークに年々減少し、特に中心部の小学校では、激減を続けている。

児童数が減少し学校が小規模化することは、教育効果や学校経営等に様々な影響を及ぼすことが懸念されることから、甲府の子供達すべてが、等しく学ぶことのできる教育環境の整備・充実を図ることを目的に適正規模化を推進している。

甲府市立学校適正審議会設置……「条例」と諮問事項

- ①市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本的考えについて
- ② 〃 〃 の通学区域について
- ③ 〃 〃 の適正規模・適正配置の具体的な方策について

○ 審議会からの答申

- ①について 学級数については、1学年2学級以上を適正規模の指標とし、1学校12学級以上18学級を標準適正とする。（児童数に置き換えると360人から600人程度）
- ②について 低学年児童が徒歩で通学する距離は2キロメートル程度を許容範囲とすることが望ましい。
- ③について 地域を示すと共に、地域社会の核となるような配慮を行なう必要がある。

中心部4校統廃合構想の市長表明

白紙撤回を求める請願書の提出、統廃合反対の署名簿提出、統廃合賛成陳情書の提出の賛否両論が出される。

○ 市長対話の開催 延18回 市長は一般的には、賛否が有る場合全面に出ない場合が多いそうだが甲府では、市民の意見・要望を聞く場と位置づけ、教職員を対象を皮切りにして未就学保護者を含む保護者及び自治会住民を対象に開催

統廃合「基本方針」に基づく適正規模化の推進にとり組む

浜田市にとって学校規模は、大小様々である。教育現場や通学、地域との関係、予算措置、優先順位、等懸案する問題がある。甲府の取り組みを参考にしたい。

* * 銚子市 * *

銚子市は、関東平野の最東端に位置し、人口728百人で恵まれた自然環境と地理的条件を生かし、古くから魚と醤油のまち、また、東北方面海路から利根川を利用した江戸への水運基地として栄えた。

調査事項 銚子市立総合病院休止の経過について

浜田市は、本年開業を目指して医療センターの移転新築工事が進められている。開業にむけて医療スタッフの確保に取り組まれていると聞く。全国的には医師不足が叫ばれているし、県内でも医師不足を原因として総合病院の閉鎖や危機的状況に追い込まれている。そこで、銚子市の総合病院の閉鎖から、これからの地方病院のあり方を視察することで参考にとと思う。

○ 休止の経過

- 1、病院の概要 地方公営企業法の全部適用（昭和36年4月）
- (1)開設年月日 昭和26年9月3日
- (2)病床数（許可病床数） 393床
- (3)診療科 16科

2、これまでの運営状況

(1)常勤医師数の推移

平成15年・35人 16年・36人 17年・34人
18年・35人 19年・22人 20年・13人

- ・平成16年4月から導入された「新医師臨床研修制度」の影響により地方の自治体病院等から大学病院医局への医師の引き揚げが発生
- ・平成18年特別職の減額上程（病院長、月額93、000円）
- ・〃 19年日本大学は教育関連病院としてAランクからBランクに変更
- ・〃 20〃3月院長が退職

(2)患者数の推移

平成15年 入院・外来合計 326、151人
〃 19年 〃 〃 190、860人

(3)入院・外来収益の推移

平成15年 入院・外来合計 37億7630万円
〃 19年 〃 〃 20億920万円

- ・診療報酬の引き下げの影響も大きい。

平成16年度 1%引き下げ
〃 18〃 3、16% 〃

(4)経営状況の推移

平成15年度	純利益	4900万円
〃 16〃	〃	▲1億5500〃
〃 18〃	〃	▲6億6900〃
〃 19〃	〃	▲2億4000〃

・平成19年度は15億円の繰出し

・〃19年度末の累積欠損金は18億4千万円

3、市の財政状況

(1)財政調整基金の大幅な減少

平成13年度には23億6千万円あったが毎年度取り崩し、今年度末の残高は約600万円

【まとめ】

この間、病院側の努力、市と県の存続にむけた協議などしたが、多額の資金不足が生じる事、医師不足による救急対応や入院受け入れが困難となり一旦休止となった。

議会も休止に伴う補正予算と関係条例が13対12で可決された。

市長のリコールも起きている。

島根県内でも公設病院の存続が危ぶまれている。地域、行政、病院が一体になりながら医師確保等に取り組まれている。地方の医師確保の支援を当事者まかせにせずは判るが、国の取り組みの重要性が問われる。特に、地方の民間病院の閉鎖を受けて、医療を守るために公設となる場合、銚子の市立病院から学ぶ点は多々有る。

医療センターにおいても医療スタッフの確保も同じである。済生会も看護師不足による入院病床を縮減している。

以上

報告者 新田 勝己



◎会派視察(社会クラブ)メンバー 新田代表・三浦議員・江口

◎視察先・視察内容

11月18日 6時30分浜田市役所出発～16時31分ホテル着まで旅行日

19日 甲府市議会 : 小学校統合(適正規模)問題について(舞鶴小学校)

20日 鉾子市議会 : 市民病院休止の経過について(鉾子市立総合病院)

浜田着22時

◎視察内容(甲府市・午前 ～ 水源かん養森林視察)

19日は甲府市議会の都合もあって視察時間が14時となっていたが、以前よりM議員と親交があって、定年退職後の現在も甲府市上下水道局の囑託をしておられるH氏のご好意で同行していただき、午前中を上水道水源保護地域となっている「水源かん養林」「荒川ダム」などを、今までの経過の説明を受けながらの視察。

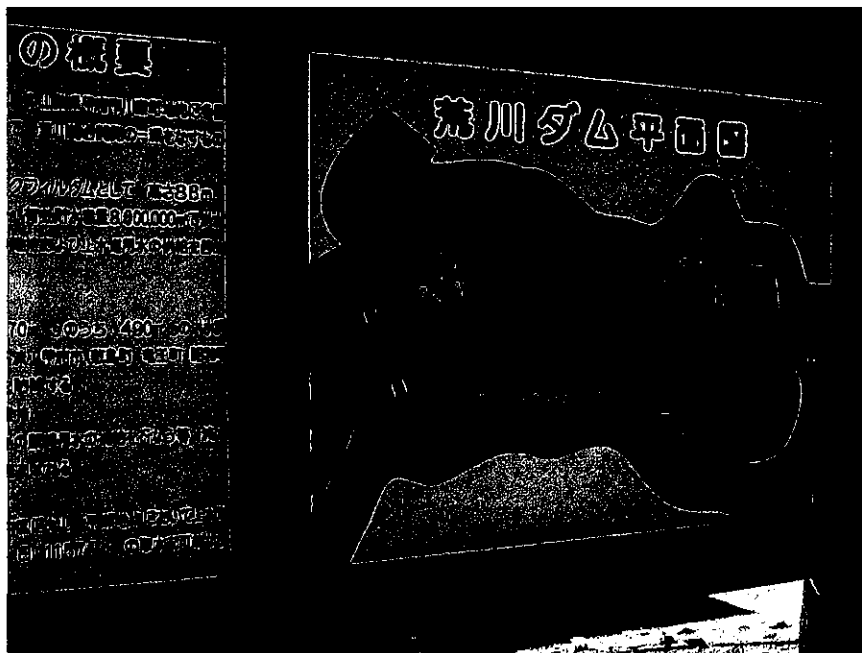
この水源かん養林は森林には水を貯える保水力がある事を活用した「緑のダム」として市民の協力により「おいしい水」を確保するのは勿論のこと、洪水緩和・渇水緩和・水源浄化などの働きに重要な役割を果しているとの事です。

H氏の言われた「森林には水源かん養機能・土砂崩壊防止機能・保健休養機能・大気保全機能・野生鳥獣保護機能などがあり、私たちにとって計り知れない公益的機能があり、この機能は広葉樹林のほうが高く、私たちがこの恩恵に報いるために森林地域の保全に市民こそ努力しなければならない。そして後世に引き継いでいかななくてはならない。汚すのは一瞬だが元に戻すには百年かかる。」との言葉は重さを感じた。

現代の環境問題を考える重要な視点である。

H氏のご好意により、思わぬ視察ができ喜んでいる。

浜田市も主として周布川の伏流水を水源に使っているが、環境保護へむけ市民と共に考えてゆかなくてはならない。



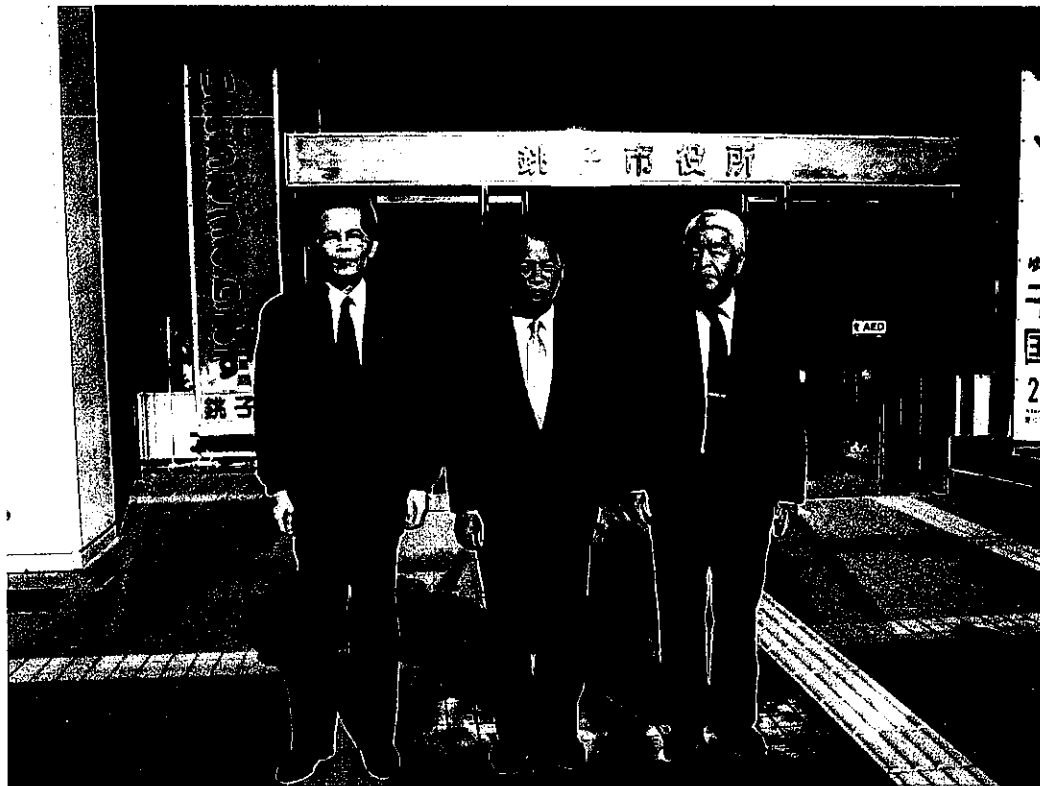
◎小学校適正規模(統合問題)関係で新設の市立舞鶴小学校視察

浜田市でも学校統廃合審議会の答申も済み、現在関係学校保護者、地域説明会などが教育委員会により取り組まれている最中ではあるが、浜田市の場合には現在浜田自治区内、三隅自治区内の学校が対象で、他の自治区では少数児童の学校では統廃合を望む保護者も多いなど、統廃合についても様々な意見が出ています。

そこで、数校の統廃合計画が示されている中、すでに統廃合を実施し中央に近い3校統合による新設校を設置されている甲府市立舞鶴小学校を視察。

市の方針としても、昭和55年度をピークに年々児童数の減少傾向にあることをふまえ、「甲府市立学校適正配置審議会」を設置し、平成9年8月には最終答申も示されていますが、小規模校のいいところ(一般的な傾向)もふまえつつ、児童数の減少により学校が小規模化することは教育効果や学校経営等に様々な影響を及ぼすことが懸念される事から、甲府の子供たちすべてが等しく学ぶ事の出来る教育関係の整備・充実を図る事を目的に市立小学校の適正規模化を推進しています。また教育委員会には総務課の中にも「学校規模適正化係」を配置しています。

また、平成12年4月には中央部10地区の自治会連合会が主体的に「地区教育を考える会」も設置され、特に中心部で児童数が激減している実態と、反面周辺部に児童の増加が予想されるなど地域的な偏りを見せている状態もふまえ、全市的な立場に立った検討をする事が必要となっている。



しかし、常勤医師数も平成16年の36名をピークに、平成16年に導入された「新医師臨床研修制度」の影響により地方の自治体病院等からの大学病院医局への引き上げもあって、平成20年には13名で半数となっています。

このように医師数の減少により、平成19年には市立総合病院をAランクからBランクに変更を受け、同年10月には日本大学より院長の引揚げ要請も出た。病院休止直前には内科医師1人・外科医師1人となり救急患者受け入れも入院患者の対応も不可能となった。

このほか患者数も平成15年から平成19年の間に入院患者51,557人(45%減)外来患者83,734人(39.4%減)の減少となり、収益も17億の減少となっている。(この間の診療報酬引き下げの影響も大きい。)


以上のように、市としても医師の確保に努めるとともに、2度にわたる経営危機に対して多額の資金援助に取り組んできたが、急激な医師の減少などによる収益の悪化と、これを補う市財政の不足により平成20年9月末をもって一旦休止となった。

浜田市も医療センター移転・改築が進み全容が視えつつあるが、給与問題など医師確保策も容易な情勢ではないし、建物は立派でも中身は・・・と言われないうちにも銚子総合病院を対岸の火としないよう注視していきたい。

社会クラブ会派研修視察報告書

浜田市議会議長

牛尾 昭 様

報告者 三浦 一 雄 

視察目的 現在、浜田市行政の課題を基に先進地を訪問して、課題に対する執行部の取り組みや住民側の意見反映が、どのように活かされているのかを調査して、これからの議会活動につなぐ事を目的に研修してきました。

視察先(行動日程)

○ 11月18日(火) 朝6時30分浜田市役所を出発して広島空港から羽田空港へ。山梨県甲府市までの移動。当初、石見空港利用促進の立場から旅行社に『石見空港離発着』をお願いしていましたが、視察先の研修時間調整が上手くいかずに、直前になって航空便の多い広島空港を活用したものです。

11月19日(水) 山梨県甲府市水道局の水源涵養林を視察(朝9時から12時まで)

平成の名水百選に選ばれています甲府市水道の原水(上流)は、御岳昇仙峡を含めた広大な耕地を、自然樹木と住民の協力によって水と森林が守られていました。

水源涵養林とは、降った雨をいったん樹木や土壌に蓄え、長い時間をかけて川や地下水となり、上水となって各家庭や事業所に給水されているものです。私達は、元甲府市水道局職員だった広野一氏に現地説明の依頼をお願いし、平瀬浄水場を基点に上流の取水口監視状況や荒川ダムの取水状況、さらに原水とも言えます涵養林を見た時には感動を覚えました。

甲府市水道局は21世紀水源保全計画を基に、『信頼され愛される水道』・『豊富で安全でおいしい水の供給』・『水の大切さ』を目指して、市民との協働によって水道水が守られていました。その背景には、行政の指導力と地域住民の理解が物語っていました。涵養林指定地域の住民には行政の支援策として、各戸別に合併浄化槽の設置負担(90%補助)・営業店負担は(50%)、公民館建設は全額補助されていました。

涵養林指定に対する地元説明会では、認識の問題もあり、当初は反対意見が多く苦勞をしたそうです。しかし、効果が少しずつ表れ住民の協力が如実に見えるようになり、ごみの不法投棄・松くい虫対策・倒木対策等、監視体制の充実が図られ、さらに年1回の甲府市職員・水道局職員・地域住民が一体となって、指定地域内の広葉樹植林作業をしている

とのことでした。

11月19日（水）山梨県甲府市立舞鶴小学校を視察（午後2時から4時まで）

浜田市の、課題の一つには小学校統合問題が残されています。甲府市も同様に、市立小学校の適正規模・適正配置が大きな課題としてあったようですが、最終的に保護者や地域住民の理解を得て解決されていたので調査してきました。3校を統合しての舞鶴小学校会議室には、甲府市教育委員会教育総室長・係長と舞鶴小学校校長先生が同席され、私達が具体的な質問するなかで、丁寧な説明を受け感心いたしました。

最初に3校統合の背景には、市街地での児童数の減少が激しくなってきた経過がありました。その原因として、土地の高騰により都市部離れが進んだための現象がありました。教育委員会は、児童の激減傾向を基準に適正規模・適正配置を確立するため、甲府市立学校適正配置審議会に諮問・答申を受けて、教育委員会の方針決定が行われていました。

この方針を基に、市長は市議会定例会において統廃合構想を表明されましたが、当然の事として、統廃合反対の署名簿提出（3万人分）・賛成の陳情書提出されていました。その後、市長の改選期もあって新市長が誕生以降、市長自ら、市長対話と名打って第1ステージ（延べ11回）・第2ステージ（延べ6回）、リーフレット市内全戸配付。議会対策として市長は、市長対話を踏まえた基本方針を策定して議会に提出されました。

市長をはじめ、教育委員会職員の果敢な積極的行動が保護者・地域住民・市議会議員の心を動かし、皆さんの合意を基に3校が統合したと力強く説明がありました。現在では、保護者からの意見として、『友達も増えてクラブ活動も出来るし、子ども達が生き活きしています。』と言われるようになり、統合は失敗だったと言う保護者は全くおられませんと言われました。

浜田市は平成21年度、小学校統合問題の大きな山場を迎えることとなります。伝統と歴史ある小学校を廃校することには地域住民の計り知れない寂しさは残りますが、大規模校児童と同じように対等の教育環境をつくるのが私達に求められていると思います。

私は、小学校統合問題解決に向け、これからも努力する所存です。

11月20日（木）千葉県銚子市立総合病院休止問題について（午前9時から11時まで）

今年9月、テレビ・新聞報道で銚子市立総合病院休止することを知り、ショックを受けました。経営環境は違いながらも、浜田市には国立行政法人浜田医療センターがあり、平成21年10月には浜田医療センター移転新築開院のために、浜田駅北側での工事が着々と進行している様子を見れば、私は安心感を持っています。

何故、銚子市立総合病院が休止に陥ったのか、原因を究明するために銚子市議会会議室に、市議会議長・総合病院局長・行政改革推進室主幹・係長同席のうえで、質疑を行いました。

市立総合病院休止の背景には、医師不足や度重なる診療報酬の引き下げにより極めて厳しい状況にあり、診療体制が維持できないことと銚子市財政が非常に厳しいことから、財政支援が出来ないために休止されていました。市立総合病院は、浜田市水道部と同じように地方公営企業法が適用され独自会計となっていました。経営状況が非常に厳しいために、一般会計からの財政支援（年間8億から9億円）を受けていたとのことでした。これらを背景に、診療機能の縮小や経営分析を行われましたが、年度途中での千葉県の財政支援が受けられなかったことや、医師数の減少や退職が大きな影響となっていました。

医師数の減少や退職の要因は、大幅給与カットが行われた結果が原因にあったのではと判断いたしました。銚子市当局の、市財政維持のための判断と思いますが、あまりにも住民のしわ寄せが大きく押し掛かった状態になったのではないのでしょうか。銚子市の今後の方向性として、指定管理者制度による「公設民営」等での再開を模索するとの見解が示されました。

帰りの機内で、東京新聞を読んでいたときに、『銚子市長リコール手続き』の大見出しに食い入りました。記事内容は、市民団体が『総合病院休止で遠くの病院に運ばれ、救急車の中で亡くなった人もいる。市長が病院をつぶしたことは許せない。』とあり、記事のまとめとして、突然の病院休止で市民に動揺が広がっていることから、リコール成立の可能性は高いとされていました。

私は市立（公立）病院の、財政悪化を基に休止と判断された結果に未だ疑問を抱いています。何処の地域に住居を構えていても、誰でも安心して医療機関に頼れる体制づくりを整えるために、公立病院は必須であり、国からの財政支援（交付税）見直しを図るべきと思いました。

総 評

この度の研修視察は、『安心で安全な水道水への取り組み』・『小学校統合問題での取り組み』・『公立病院運営のあり方』について、いろいろな事を学ぶことができました。いずれの項目も生活密着の課題であり、今後の浜田市行政運営に活かしていくことを決意いたしました。